参 考 資 料

第４１回島根県総合開発審議会議事要旨

日　時　　平成２３年１０月２８日（金）
　　１４：３０～１６：３０
場　所　　島根県民会館　大会議室

○事務局　失礼いたします。定刻となりましたので、ただいまから第４１回島根県総合開発審議会を開催させていただきます。

開会に当たりまして、溝口善兵衛島根県知事からごあいさつを申し上げます。

○溝口知事　一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、皆様方にはお忙しいところ、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、この審議会の委員に御就任をいただきまして、厚く御礼を申し上げる次第でございます。

島根総合発展計画は、概ね１０年を見通した計画として、平成２０年の３月に作成をいたしました。「誰もが住みやすく活力ある島根の実現」を目指しておるわけでございますが、この４年間、財政の健全化も図りながら取り組んできているところでございます。

この計画は、最初の４年間は実施計画ということで、さらに詳細な計画をつくって実施をしてきておりますが、今年度末に第１次の実施計画が終了し、来年、平成２４年度から２７年度までの実施計画を作成しようと考えているところでございます。

この４年間の動きを見てまいりますと、この後で詳細を説明させていただきますけれども、概略的に申し上げますと、当初に掲げました目標が達成可能なものもかなりあるわけでございますけども、実施計画策定後、平成２０年秋のリーマンショックでありますとか、あるいは今般の大震災、あるいは円高、世界経済の不安定等々、経済・社会情勢も大きく変化をいたしておりまして、産業、雇用の分野などにおきましては、目標の達成が難しいものも相当あるわけでございます。さらにまた、安全・安心という観点から申し上げますと、今般の大震災、あるいは原発の事故、あるいは台風、水害といった自然災害もございます。さらに、鳥インフルエンザ、犯罪、交通事故等々におきましても、新たに取り組むべき課題も出てきているわけでございます。

そうした中で、私どもは今後も社会・経済情勢の変化によく注意を払いながら、私どもが持つ島根の強み、豊かな自然でありますとか、古きよき文化・歴史、あるいは豊かな地域社会、そういった強みを生かしながら、県を挙げて工夫、努力を行い、みんなで力を合

わせまして、「安全・安心で誰もが住みやすい、活力ある島根の実現」に向けまして、全力を尽くしていきたいと考えているところでございます。

そこで、次の４年間の実施計画を、今年度末をめどに作成をしたいということで、本日、この審議会に対しまして、今後の４年間の実施計画につきまして諮問をさせていただいているということでございます。本日から審議が始まるわけでございます。皆様方には忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○事務局　本審議会でありますけども、平成２１年７月以来の開催でございます。皆様方には本日から２年間、委員として御就任をいただくことになります。快くお引き受けいただきまして、本当にありがとうございました。略式ながら、お手元の方に委嘱状を置かせていただいておりますので、御確認いただきたいと思います。

本日は、御就任いただきましてから初めての審議会でございますので、こちらの方から委員の皆様を御紹介させていただきたいと思います。

（委員紹介）

○事務局　それでは、これから審議に入るに当たりまして、本議会の議長は、審議会規則の第４条で、会長に議長を務めていただくことになっております。しかし、今回は初回ということでございまして、議事の（１）会長、副会長の選任については、事務局で進行させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局　島根県ではこのような審議会は、原則公開で行うよう条例で規定しております。したがいまして、本会議につきましても公開させていただくこととしたいと思います。なお、議事要旨につきましては、後日、県のホームページに掲載することとしておりますので、御了解願います。

それでは、最初の議事であります会長、副会長の選任についてでございます。

審議会規則第３条の規定によりまして、委員の互選により選任することとなっております。委員の皆様の御意見をお伺いしたいと思います。

御意見がないようでしたら、事務局から提案させていただいてよろしいでしょうか。

○事務局　失礼いたします。そういたしますと、事務局といたしましては、島根大学の学長でいらっしゃいます山本委員にお願いしてはどうかと思っておりますが、いかがでございましょうか。（拍手）

○事務局　御異議ございませんようですので、それでは、山本委員さんにお願いしたいと

思います。

山本委員さん、ごあいさつをお願いいたします。

○会長　失礼いたします。今、大変な大役を仰せつかったところでございまして、先ほどの知事さんのごあいさつにもございましたように、島根県民が活力を持って、安全で、そして安心して住める計画づくりということについての皆さんの御意見を伺うということでございます。

先ほど知事さんのお話にもございましたように、この４年前につくられた計画、その後、政権の交代があり、そして今年の島根県東部の大雪害、それから東北の方の大震災といった、非常に大きな出来事が続いてまいりました。４年前に計画されたことはおおむね順調に進捗しているというふうには伺っておりますけども、中にはこの先の４年間の計画の中で一部新たなことの追加であるとか、そういったこともあろうかと思います。皆様方の忌憚のない御意見を存分に出していただいて、先ほど諮問がございましたことに我々委員会として、審議会としてこたえていきたいということでございますので、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

○事務局　ありがとうございました。

続きまして、副会長の選任でございますが、会長に推薦していただいてはいかがかと思いますが、どうでしょうか。

それでは、山本会長さん、御推薦をお願いします。

○会長　それでは、副会長には、医療福祉のほか、幅広い分野において活躍され、現在、県の多くの審議会の委員も務めておられます看護協会会長の春日委員様にお願いしてはいかがかというふうに思います。よろしくお願いいたします。（拍手）

○事務局　それでは、春日副会長さん、ごあいさつをお願いいたします。

○春日委員　失礼いたします。

ただいま御紹介いただきました島根県看護協会の春日でございます。県民の皆さんが安心して暮らせる島根県をつくるにはどうしたらいいかということを皆さんと一緒に考えていけたらというふうに思います。どうかよろしくお願いいたします。（拍手）

○事務局　それでは、これ以降、会長に審議を進めていただきますので、会長様、副会長様、前の席の方へ移動をお願いいたします。

○会長　それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。

先ほど溝口知事様の方から本審議会に対しまして諮問いただきました島根総合発展計画

の第２次実施計画について、事務局より計画策定の考え方から６番目の満足度調査まで、一括して説明をお願いいたします。

○事務局　　（資料について説明）

○会長　ありがとうございました。

今、議事のうちの２番から６番まで、一括御説明をいただいたところでございます。

３時ぐらいまでのところでいろいろと御意見を賜ればというふうに思います。第１回目の会議ということで、今御説明をお聞きし、あらかじめ資料をごらんいただいているということもございますが、本日のところは島根県の現状と課題、それともう１件、今後４年間の取り組みの方向性、こういったことについても御発言をいただいて、そういった御意見を参考に、次回の今後４年間の取り組みについてのたたき台を整理していただくと、こういうふうなことで進めたいというふうに思いますので、どうぞ御自由に、忌憚のない御意見をちょうだいしたいと思います。

どなたからでも結構でございます。よろしくお願いします。

どうぞ、お願いします。

○委員　初めてこの審議会に出させていただいたところですが、先ほど説明があった政策評価の概要と県民満足度アンケートということで、非常にやっぱり満足度調査のベスト５を各項目に見たときに、先ほどありましたように雇用、医療とか教育の充実と。それに対する満足度の度合いですね、この辺を政策評価の中でどう整合性をしていくかいうことが非常に重要、政策評価的には、例えば雇用の場合は目標達成に近いが、満足度では少しそこにという部分があって、これはまだ速報値なので、その辺を少し分析をして、次の計画に入れていった方がいいのんではないかということで、少し、今見たところで、その辺で意見とさせていただきます。

○会長　ありがとうございます。

お願いします。

○委員　私は邑南町ですけれども、大変高齢化の進んでいる地域でございまして、今もう４０％を優に超しておりますが、そういう中で、高齢者の方々の仕事づくりと居場所づくりをやっていこうということで、１５年ばかりそういうふうなことに取り組んできた者ですが、それはそれで一応の役割を、ほかのグループも含めてやってこれたと思うし、今朝の新聞を見ても、島根は高齢者にとって一番住みやすい県だみたいなことも報道をされております。

この前送っていただいた資料を、本当にざっとですけれども、目を通した中で、これでいいのかなと思ったことが一つあるんですね。これまでは本当、どんどんどんどん高齢化が進んでいく。だから、その高齢化にどう対応していくのか、高齢化していく地域社会をどう切り開いて元気をつくり出していくのかというところに物すごく軸足を置いてきたんですね。それはそれで、介護保険のこともあったり、いい悪いは別として、そういう中である程度の効果も否めないと思うんですけれども、その陰で、実は若者が非常に減ってきているという、少子ということがありますけども、邑南町は、もう限界集落がほとんどです。ざっと見渡しても、あと２０年すると、私どもの集落の３分の１は家がなくなります。後継者がいなくなります。３０戸ばかりの集落ですけれども、子供が、小学生がいるのは我が家だけでございます。あとには、もう子供がおりません。

だから集団登校なんて夢のまた夢という、そういう状況の中で、だからといって、こういう施策を講じたからすぐ子供がどっとふえるということは、それはないことだと思いますけれども、今、邑南町にとってとっても大切なのは、よそから入ってきて定住をしている若者たちです。香木の森の研修生であったり農業の研修生であったり、そういう方たちが地元に定着をして、２人、３人と子供を産んで、そしてその人たちが、実は見も知らない地域の高齢者の人たちの相談役をも引き受けてきてる。そして農業集団組合の担い手もやっている。自分も農業をやっているという、そういう構図をいかに地域として、県として支援をしていくのかということに、そしてその生まれた子供たちがきちんと育てていけるような、これは銭金の問題だけでなく、教育の問題も含めて、そういうふうなことへ軸足を少しシフトしていかないと、私は高齢者の問題ばっかり見てきたんですけれども、高齢者ももちろん大切な問題ですけれども、それだけではなくて、若者たちがこのまちで暮らしていける、この県で暮らしていけて、元気で、そしてどんどん子供も育てていけるような施策を表にもっともっと強く打ち出していかないと、バランスを欠くことになるんではないかなと、この前送っていただいた資料を読ませていただいて、つくづく思ったことです。

また、いろんなお話を交換をしていきたいと思います。失礼しました。

○会長　ありがとうございました。

そのほかに何かございますでしょうか。

どうぞ、

○委員　私の日ごろの活動に関係ある分野ということで、２の「安心して暮らせるしま

ね」の４番、子育て支援の充実、また３の「心豊かなしまね」の多彩な県民活動の推進というあたりを特に重点的に見させていただいているところですけれども、今、委員が言われたのと同様に、ボランティアも大事ですし、子育て、福祉の充実も大事なんですけれども、個人がやるボランティアだけではなくて、組織でとかグループで責任を持って進めていこうとする県民の活動を支援するということは、特に多分震災の後、だれもが感じていることではないかなと思います。そこを今までの施策にプラスして、強く広げていくべきではないかと。同じことが子育て支援の中でも、行政からいただく支援、してもらう支援だけではなくて、子育て中の人たちや、それを取り巻く人たちがみずからやろうとする活動を支援するという視点をこれから強めていかなくてはいけないのではないかなと思っております。以上です。

○会長　ありがとうございました。

お願いします。

○委員　私たち行政の立場で何を一番最重点にやるかというと、やはり定住ということだと思うんです。そこにたくさんの人が住んで、とどまって、そしてその地域を豊かにしてくれる、そのことが一番大事なわけなんですけれども、したがって、この計画の中にもそういったことが非常に重要なものとして書かれているわけですが、やっぱり現実問題としては、どんどん若い人たちが外へ出ていくということがあります。それで、松江などでも県のお力添えもいただいて、企業誘致だとか産業振興とかということをやっているわけですが、結局なぜ出るのかということを聞くと、松江には職場がないと一言で片づけられてしまうわけです。

一生懸命我々として努力してきているつもりなのに、そういうふうにばっさりと切り捨てられてしまうというところがやっぱり問題だなあというふうに思っていて、一つには我々のＰＲ不足ということもあるんですが、もう一つにはやっぱりミスマッチのようなものがあるんじゃないかというふうに思います。したがって、行政としてはこういうことをやっています、こういうことをやっていますと、企業誘致とか何かで何人雇用の確保をしたということは、もちろんこれはいいわけですけれども、それが結果としてどういう形でいわゆる社会減の歯どめというか、そういったことに貢献しているかというところは、やっぱりもう少し分析をしてみる必要があるんじゃないかと。そうすると、そこのところが、実は一番行政として対応していかなければいけない課題ではないかというふうに思います。

さっき他の委員さんもおっしゃったように、大変重要だと言いながら、そしてまた評価

としてはＢクラスの評価が行われているにもかかわらず、満足度としては非常に低いというところは、やっぱりそこのところに何か問題があるような気がいたしますので、ぜひそこは分析をして、きちっとした施策を立てていただくということが必要なのではないかというふうに思いますし、それからもう一つ、やっぱり定住の問題では、そういった企業誘致なり企業対策ということと同時に、やっぱり安全・安心ということは、これからやらなきゃいけないと思います。

よく言われるように、松江には原発があるから、もう行くのは嫌だとか、そういうふうに端的に言われますと、大変我々としてもつらいところがありますので、ここは、私たちもそうですが、県としても独自の安心・安全対策というものを何かやっぱり打ち出していただいて、ここはこういう対策を講じているから大丈夫なんだよということを全国の皆さん方、あるいは県民の皆さん方にアピールをしていただくということもぜひお願いしたいなというふうに思います。

○会長　ありがとうございました。

そのほかに何か。

どうぞ。

○委員　私たちは、医療従事者の養成確保ということになっておりますが、医療従事者をせっかく確保しても、なかなかその職場に定着しないというふうなところがありますので、ぜひともに医療従事者の養成確保というところに、定着ができるように定着の促進という言葉を入れていただけるとよろしいんではないのかなというふうに思います。せっかく本当に、せっかく県外からＩターンされる、Ｕターンされても、その方たちが、いろいろ周りの魅力とかがなくてやめてしまうというふうなところがありますので、定着促進ということを掲げていきたいというふうに思っております。ぜひともによろしくお願いいたします。

○会長　ありがとうございました。

そのほかに何かございますでしょうか。

それじゃあ先にどうぞ。

○委員　済みません、私もこの会は初めて出させていただいたと思っていますけれども、この政策評価の概要というようなところで各項目ごとに、今まで取り組まれたことに対しての評価なり、それからこれからの若干問題点が指摘してございます。

そういう中で、ここの２番目に農林水産業の関係に触れられております。これを見ます

と、何か農業の後継者なんかも結構増えてきておるとか、そういう方向に進んでおるような、新規就農者が増えたとかというようなことになっておりますけれども、ちょっと実態とどうかなという感じがして、今、見させていただきました。

したがって、先ほども隣の委員が言われましたけども、地域によってはもう既に限界集落と言われるような状況になっておりますし、これらが２０年と言わず、５年、１０年後、本当に近い時期には村自体がなくなっていくんじゃないかということが懸念されておる地域も結構あるんです。したがって、この島根という県で、そういう疲弊しつつある、特に中山間地域、さらには農業、こういうものを抜本的にどうして活性化をさすのか、こういうことが非常に重要な命題ではないかというふうに思っておるんです。

したがって、いろんな施策はしていただいて、点としては他県に誇るような優秀な事例もあっておることはあります。しかし、面的に、それじゃあ島根の農業が活性化の方向に向かっているかという総合的な評価をしたときに、まだまだ努力しないという思いがしておるんです。

そういう意味で、これからの３年、４年の計画を立てていただくということなわけでございまして、そういう中では、ぴしっと地域をどう活性化をして守っていくのかということあたりに力点を置いて、県としても予算配分等々も含めて、少し心を配っていただかないと、まさしく島根県が本当になくなってしまうという強い危機感を持っておるわけでございまして、そういう意味での活性化対策をぜひとも、今までもやっていただいておるわけではございますけども、さらに現実を直視していただいて、今回、ＴＰＰの問題なんかも出ておるわけでございますが、これらが進んでいけば、本当にひとたまりもなく、今でも農業者はなかなか生活が、所得が低くて農産物価格が下がっておって厳しい環境ですから、そういうことにさらに拍車がかかることは、もう目に見えております。そういうことでございますので、ひとつ対応策を早急に私はお願いしたいというふうに思っています。

それから、たまたま私も福祉の関係にもかかわっておりまして、この中で大きい２番目の３番の中に医療機関の関係、事業の関係、従業者の養成確保というようなものがうたわれておりまして、それなりに努力されておると思いますけれども、例えば出雲なんかでも、農協でデイサービス等をやったり、いろいろ福祉事業をさせていただいておりますが、看護師さんが本当におられませんね。それで、あれだけ看護師の養成に努力をいただいているというふうに思っていますけれども、本当におりませんよ。

それからお医者さん。これも社会福祉事業の中で老健とか等々、お医者さんが必要なわ

けでございますけども、これもなかなか探してもおられない。一体医大であれだけ、今、島根でお世話になってお医者さんが誕生されてますわね。ほとんどの県に医大が設立されたというふうに理解していますが、毎年、かなりの数が卒業されるにもかかわらず、この島根という地域には医者が残っていただけておらないということだと思うんですけども、これは一体なぜなのかというね、何か単純な疑問かもしれませんけども、現実はそうなんですよ。

ということで、こうした面でも、そうした皆さん方の確保ということにいま一つやっぱり力を注いでもらわないと、特に看護師とか、そういう皆さん方が少ないと、需要と供給のバランスで、どうしてもわがままを言うんですよ。探してもいないから、ちょっとしたことでもクレームをつけてやめるとか、少し厳しいことを言うとやめてしまうとか。したがってレベルがかなり落ちてるような感じがして見ております。というようなことも含めて、ひとつ医療関係の医師、看護師、そうしたところの確保対策をぜひとも県としてもやってもらわないと、地域でのそういう福祉活動が、医療というところももちろん、聞いてみますと医師が足らないということでございますが、何かこれは対策をしてもらわんと、本当に大変だなという感じがいたしております。よろしくお願いしたいと思います。

○会長　私がここで医師養成について話をしても始まりませんが、これは知事さんを初め県の健康福祉部の方でも、非常に今、尽力をしておられまして、いろんな社会的な構造もあるというようなこともあります。ただ、出雲部には、先ほどデータがございましたように、全国平均よりはるかに多い人口１０万人当たりの医師がいるというようなこともある。偏在ということがやっぱり一番の問題で、特に石見地域の方にお医者さんが少ない、看護師さんも少ないというような状況がある。このことは問題としては十分、県の方としても認識をしていらっしゃいますので、それをどういう形でこの４年の計画の中に反映していくかということだろうと思います。ありがとうございました。

○委員　失礼いたします。

石見の方の工芸品を扱っている協同組合でございまして、国の指定を受けております石見焼とか石州和紙、ユネスコの文化遺産に登録をされました石州半紙やなんか、そういう職人さんたちの組合をして、事務局をしていますけれども、工芸品の販路開拓というのはとっても難しいところもございまして、県の方ではブランド推進課を通していろんな販路開拓をしていただいているところなんですけれども、それ以前のところで我々が心配しておりますのは、だんだんと子供たちが地元の工芸品を使っていないというようなところが

見られるというのが寂しいところでして、ふるさと学習などを通して我々も小学校、中学校の方に陶器の、陶芸の体験や紙すきの体験をしていただいてはおりますけれども、もっともっと使い手の教育というところを、我々ももちろんしていかなきゃいけないところですけれども、子供のうちから、地元にはこういう工芸品があって、使ってきたものだというような使い手の教育というのも、これからまた、ますます必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。せっかくの職人がいるんですけれども、ただ、一般の市場に持っていって売るということだけでは、それもイベント的に終わってしまいますので、地域における使い手の教育ということを、何とかもう少し御協力願えないかなというようなことが一つ。

それから、せっかく最近、「神々の国しまね」でいろいろなイベントをさせていただいております。それが追い風になって、工芸品と食を一緒にあわせたメニューづくりというようなことも、このおかげでさせていただいております。江津市におりますけれども、江津市もなかなか、市の職員さんも厳しい中で、民間の我々が江津ブランドをつくろうよということで、ゴボウや地元のまる姫ポークというようなものを取り上げてブランドづくりをしてはおります。なかなか民間がしても、仕事を持ちながらやっているところですので、皆さん方のそういう、そのブランドづくりへの支援というところもお願いしたいなと思っております。

それからもう１件、江津では先ごろ、昨年からビジネスコンテストをしておりまして、若い方がたくさん入ってきてくれております。その中で気がつきましたのは、ことしのコンテストの受賞者も、すべての方が皆Ｕターンの方でございます。一度外に出て、やっぱり石見がいいな、浜田がいいな、江津がいいなというところがわかったというふうに言っております。最初からずっと地元に残すというのもどうかなということも、最近ちょっと思っております。一度外に出て、改めてふるさとを思ったときに、やっぱり住むのは地元だと。それで、企業がないから自分たちは創業をする、起業するということで江津のビジネスのコンテストに採択をされて、江津、浜田に帰ってくる若者が３人おりますけれども、地域に若い人がちょっと入ってくるだけで、江津も今、随分変わっています。ＮＰＯのてごねっと石見という法人もできましたし、県大の学生さんたちにも協力していただいて、随分地域に入っていただいて、若い人が入ってくると、こんなに地域が変わるのかなということを最近、ここ一、二年、特に感じております。これも若い人が入ってくる環境、場づくりをしたからじゃないかなということも思いました。ほんの小さなことかもしれませ

んけれども、若い人が入りやすいような場づくりをする、商店街のちっちゃな街角でもいいんですけれども、何か若い方が入りやすい取り組みが何かできれば変わるんじゃないかなという気も、最近の感想です。以上です。

○会長　ありがとうございます。

お願いします。

○委員　こんな大きな、一番大事な計画に加えていただいているので、なかなかどういうふうに申し上げたらいいかと迷うんですが、まず３・１１以降、本当に日本じゅうがどうやって生きていくかということの答えのない時代に入っていく中で、やはり島根県を見たときに、どういう強みがあって、どういう弱みがあるかということを、まず把握したいなというふうに思いながら計画を見せていただきました。

最初に、８割が森林に囲まれた豊かな地域であると。私は東京生まれですので、特に３・１１以降、これ、すごい強みだなあというふうに思います。

そして、決してもう、財政指数的には日本の中で厳しい状況。でも人のつながりは、まだ日本の中でベストファイブに入る、そういう県の強みと弱みを、本当にどういうふうに政策に生かしていくんだろうかなというふうに思いながら見ました。

例えば先ほどの医療の問題でも、実は私は東京出身で、夫は浜田で医師をしております。医師にしても、やはり東京などの大きなところの病院の医師をするのと、地方の病院の医師をするときの不安というのは、医師としての情報格差であったりすると思うんですが、そういう点というのはかなりインターネットとかで、いろんなことで解消されている、その弱みのカバーというのは進んでいると思うんです。私は東京生まれで、島根に夫が医療のために戻るというときは大喜びで参りました。それは、これからの時代、本当に子どもを育てるのは自然豊かなところだろうと思ったときに、何の迷いもなく参りました。ですので、弱みの部分と、人がトータルで生きていくときの強みは島根県はまだあるという視点を、まずいろんな政策で見直す必要があるかなと思っています。

それから、私は社会教育、特に地域で子どもをはぐくむ活動を浜田に定住してから８年余りしておりますが、ふるさと教育ということで、小学校、中学校あたりで地域への愛着を持つ子どもを育てる努力をしてまいりました。その当時の子どもたちは、もう高校生、大学生になっています。そういう子どもたちがどういうふうに社会で、島根県で生きているかということを、もう一回考える時期に来ているかなというふうに思っています。

この総合計画や、また子どもの計画も前期の間に（次世代推進計画でいえば、前期の終

わりに、）今までは子育て支援、少子化対策だったところが、チルドレン・ファーストになって子どもを主役にする政策が国の方でも打ち出されて、ちょっとその時期がずれたため後期に反映しにくかったかも知れません。青少年の健全育成の推進というところの評価項目が青少年の犯罪の減少という、わかりやすいアウトプットなんですけれども、先ほど若い人たちが地域を変えていくというお話が幾つかある中で、やはりそういうマイナスの指標ではなくて、どれぐらい若い人たちが島根県を支えていくか、本当に島根県の中で若者をしっかりとパートナーとする姿勢が県、県民の中にあることがとても大事かなというふうに思っています。

子ども・若者ビジョン（H22.7）にも「シチズンシップ」という言葉が出てきたり、若者の、市民としての参加というところが上がっております。当然高齢化率が高いので、選挙をすれば若者の声はパーセントとしては低いです。でも、その人たちが次世代を担うとすれば、そういう人たちの声をしっかりと聞く、青少年の犯罪とかいうのではなくて、若者がどれだけこの地域に参画しているかというところの指標を上げていく取り組み、例えば、ビジネスコンテストもその一つだったと思いますが、そういうものをぜひ強化していただきたいなというふうに思っています。以上です。

○会長　ありがとうございました。

そのほか、何かございますでしょうか。

それじゃあ、お願いします。

○委員　ＮＰＯで、環境活動をさせていただいております。

この資料４－２の４７のところで、環境面のところでちょっと見せていただいて感じたところをお伝えできたらなと思うんですけども、今、皆さんがいろいろ島根のオリジナルですとか県の強みですとか、いろいろおっしゃっているんですけども、今回これを見させていただきまして、目標のところでは「地球市民として」ということですとか「環境への影響が少ない社会の実現を」ということでこの何年間か取り組んでいらっしゃって、今、少しずつ理想的な形になっているのかなというふうに拝見したんですけども、実際のところ循環型社会に向けて県民一人一人が取り組む必要があって、その指標を出していらっしゃるんですけども、この指標のところに、温暖化対策の協議会の会員数が指標になっていたんですけども、今、いろいろお話を聞いていまして、ちょっと共通するところがあるかなと思ったんですけども、現状、やっぱり貨幣経済といいますか、経済優先の社会になっていて、島根県もやっぱりそれを目指しているように、全体を見させていただいてちょっ

と感じてまして、実際に経済的な部分も大変必要なんですけども、環境面からいいますと、こういったことで循環型の島根県を目指すことで、随分変わった形で島根のよさを出せるのではないかなと思っていまして、例えばなんですけども、日本はどちらかというと持ち家を持つのが普通になってまして、島根なんかは特に土地が広いので、皆さん自分のお家を持ってらっしゃるんですけども、住宅もシェアするような形ですと、またそれが定住になったりですとか、そのためにあくせく働くことがなくということで、学校の文具一つにしてもそうなんですけども、新しいものを、皆さんが制服一つ、教材一つもそうなんですけども、みんなその都度その都度使ってたり、新しいものを購入してるんですけども、それをシェアして継続して使っていくことで、お金も使わなく、廃棄物も出ずということで循環型の社会が実現していくのではないかなという考え方で、経済効果という面では薄いのかもしれないんですけど、循環がある社会ということで、それを島根のよさにしていっていただけたら、そこで定住も生まれますし、そういった健康的で循環のあるライフスタイルを目指している島根に来てみたいなという方もふえてくるのではないかなと思っていまして、例えば鉛筆削りも一つなんですけども、益田の学校にもよく行かせていただくんですけども、ほとんどの学校が電気の鉛筆削りを使ってらっしゃるんですけども、そういったものも島根にある木ですとか、そういったものを使うことで循環にもなりますし、温かみを感じながら育っていく子供たちが、またそういったところで暮らしたいと思うようになるのではないかなということで、一番ポイントとしましては、貨幣経済からの脱却を目指す島根が循環型社会を目指していただくような形の次の施策をぜひお願いできたらなと思っています。

それで、この成果指標もちょっと再検討いただけると、この会員数が、上の目標の方ですとか循環型社会に向けてというところの課題が、この取り組みの指標が会員数になっているというのは、ちょっと出し方が、方向性が違うのではないかなというふうに感じたので、お伝えできたらなと思います。

○会長　ありがとうございました。

それじゃあ、お願いいたします。

○委員　かなり話が具体的になってきたところで、また変な抽象的な話になるかもしれませんけども、これを３つのくくりで、活力と安心・安全と心の豊かな社会ということで、非常にうまくまとめておられて、しかも、全部読ませていただきましたけども、不必要な施策なんて一つもありませんで、そういう意味からいうと、何も改めて意見をと言われて

も、特にないということになるわけですけども、この三、四年で、何をじゃあね、ずうっとやられて、何を特に重点的に照準を当ててやっていけばいいのかということをつれづれ考えますに、今、幾人かの人もおっしゃいましたが、それから今の満足度調査なんかでも見事に出てると思うんですけど、実は僕は先週、福島で商工会議所の会議がありまして出かけていきまして、半日ほどタクシーをチャーターして、自分で飯舘村から南相馬、それから浪江のぎりぎりのとこまで、ちょっと放射能で入れないような緊急避難地域とか、ああいうとこを中心に見て回ったんですが、特に飯舘なんていうのは、もう一戸も、一人も人がいないんですね、全員避難しているんですね、緊急時避難地域で。それから南相馬も半分ぐらいはもう避難して帰ってこないんですね。それはいいんですが、ずうっと町内を回ってみましたが、７カ月でこんなに荒れるのかというぐらい、田畑はもう、本当に１メーター近く、もう草が繁っていますし、ちょっと里山に入ったら、もうむちゃくちゃですしね、たった７カ月でこんなことになっちゃうんですね、人が住まないということは。

放射能をどうこう言うつもりはありませんが、島根は過疎、それは全国、田舎は全部そうなんですけど、やっぱりさっき説明があったように、高齢県ではやっぱり先進県なんですね。それから過疎でもやっぱり先進県なんです。そういう島根が今やらなきゃならないことというのは、やっぱり人が住んで環境を守って生活を保全するという日本独特のローコストオペレーションといいますか、要するに人が住むことによって、そこが何かできているという姿を早く全国に発信するというか、そういうものをつくり上げていく必要があるんですね。

具体的に言うと、今の重要度と満足度を見ていましても、そういう関係からすると、みんなつながるんですよね、きっと多分。人材、後継者がいないとか、あるいは雇用がないとかね。雇用がないというのは、また別の意味もあるかもしれませんが、それから医療がどうも不十分だ。さまざまな問題は、ほとんどそこへ帰結していくんですよね、やっぱり。人が住まないから何もない、経済効率性が悪いからどんどんそこは省いていくみたいなことになってきているわけですね。

ですから、何とかしてそこに人が住んで、住んでもらうためには、今いる人がまず動かない。それからできるだけＵターンしてＩターンして、他の委員さんがおっしゃったけど、農業も一つなんです。農業だけがすべてじゃなくて、農業も一つ。だから農業で生計を立てる人は、そこはどうやって、じゃあ県民で助け合って、そこはね、一番簡単なのは補助金ですが、そうじゃなくて、もうちょっと農業の改良に対して、例えば島根大学さんがか

なり支援するとか、民間の活力がどう入っていくのか、そういうものを政策としてだけじゃなくて、すべての県民の共通認識として、例えば医療の過疎は、それはどうやってそんなネットワークを工夫していけるのかとか、非常に横断的なんですね。一つの象徴的な政策課題としてそこにはあると思うんですね。

決してああいう飯舘のようなまちにしては、もう二度となかなか復元できないんですね。ですから、そこは非常に強く、僕は産業界から出ていますけど、非常に強く感じていますね、そこはまず一つ。だから、そういう三、四年でやるべき姿を、この施策はもちろん全部やっていただかなきゃいかんけど、取り出していって、これはどうするんだというような議論がどうしても必要だと思うのが一つ。

それから、もう一つ特徴的なのが、やっぱり雇用に物すごく関心が高いんですね。重要度が非常に高いと言いながら、必ずしもうまくいっていないということのギャップが大きいのはやっぱり雇用とか人材養成とか、そういうことなんですね。

雇用はもちろん、だからここにすべて書いてあるんです、企業誘致しなきゃならんとか、産業を活性化しなきゃ、それを着実にやるしかないんですが、もう一つ重要な視点は、これから三、四年で起こり得るあらゆるリスクに対してどうしたら……。

例えばこういうところで具体的な名前を言っていいのかわかりませんが、今、実は鳥取で三洋電機が物すごく困っているんです。もう５００人の希望退職だあやられて。これは要するにパナソニックさんの方針がそういう方針なんですね。それは地域に貢献すると言いながら、それは自分とこの存続が一番ですから、当然の帰結といえば当然の帰結なんです。でも、それが果たして準備ができていたかどうなのかね、そういうことの先が読めてね。

例えば島根県でいうと、まず、これは多分頑張ってくださると思うけど、三菱農機さんというのがあるわけです。これが重工さんの下請になったんですね。そこは３７社、下請企業があるわけです。この人たちをどうやってね、三菱農機さんの仕事もするけども、しかし自立もできていくようにするためには実際、本当にそうやって雇用をどうやって確保するんだというのは、これは官民共通の、言ってみれば県民全体の問題なんですね。そういうものを取り出していって、今あるものを、この三、四年で少なくとも片づけなきゃいかん、当然予測できるものを取り出していってね、大きいものから順番に、それをどうやってやっていくのかというのは、やっぱりそこで問題ごとに徹底的に議論して、ノウハウを持った者同士が議論しながらそれを達成していく。

あるいは、三洋電機といえば、島根にも三洋電機さんがあるんです。これは大丈夫だということを新聞に書いてありましたけど、それはやっぱりリスクとして、当然大丈夫であっていただきたいけども、その雇用というものは一体全体どうなるのかというようなこともきちんと検証しながら、問題意識を共有しながら、どうしても逃げてもらっちゃ困るなら全員で頼みに行かなきゃいかんわけですね、地域ではこういうことをしますからと。何も県だけの問題じゃないと思うんですね。

そういうようなことを一つ一つ、全部書いてありますから、これをやれば多分よくなるに決まってるんですけど、どうやってこの三、四年の間、それをある程度の方向づけをしながらみんなで御審議なさって、こういう問題からいきましょうとか、こういう問題からいきましょうみたいなことを整理をされることが僕は大事じゃないかというような気がしましたんで、ちょっと老婆心ながら。

○会長　ありがとうございました。

○委員　先ほど他の委員が申されましたけども、今、恐らく石見地方が大変不況にあえいでいるだろうと思いますよ。それで今、正直言って、信金さんにしても緊急円滑化法で貸しっ放しで、それでもってるのが今、現状なんですね。これがなくなったら、恐らく全部噴き出してくると思います。そうすると地場産業というのは大変な大きな崩壊の危機にあるんじゃないかと僕らも思っているんですよ。今は金融円滑化法で、これはやめましたと言うと国から大分文句が出ますからそのまま置いてある形になっていますが、石見はどんどん、恐らく人口も石見が一番減ってるんじゃないかという感じがするんですね。

私は、大田でも人に言うんですけども、もうどんどん広島に出ていけという話をね、出店をしてですね、新しいところで。ですから今考えても、さっき言ったように、もう大企業も、８００社いると約４割はもうどんどん海外に出ていくと。それは全部田舎に響いてくるんです。田舎の方が一番響くんですね、やっぱりこれは下請だから、みんな。ですから、ある意味では非常に大きな構造転換期にかかってると思います。ですから、若い人が新しい仕事に取り組んでいって、それをやると、県は非常に誘致企業なんか、いろんな援助をしていただいているのは大変ありがたいことですけども、若い人が新しい仕事に取り組んだときにどうするかという問題は、一つの問題だろうと思うんです。

昔はまずね、大邑開拓なんていうのは、開拓が完成してから、農業法人ですけど、５０年の考え方しとるんですね、これ、５０年の。今、そんなとこに金やりませんわね、恐らく。そんな、要するにある程度、事業ですから金融によって生きるし、金融によって死ん

でいく分野があるんですね、やっぱり。ですから本当の意味で、長い金を貸して、転換資金とかそういうものは新たにつくって、若い人をそういうところにはめ込んでいくとか、農業に関しても、やはり農協もおられますけども、長い金でやっぱり支援していく、低利で長い金をつくってですね。国はなかなか金がないからやらんでしょうけども、そういう問題が、やっていきながら産業基盤の構造変化に対応できるような、やっぱり支援策を考えておく必要があるだろうと僕は思っています。

とにかく島根県も大田も、みんな若い者が、みんな何か知らんけども、仕事がもうない、あれがない、商店を持たれない。ですから、もうショッピングセンターも正直言って今、どんどんどんどん苦しんでいますね。出雲のショッピングセンターも苦しんでいますし、あらゆるところのショッピングセンターが、もう既に閉鎖しなきゃならんような状況になってきたり、再生支援機構に入ったりしていますから、もうこれをつぶしてしまうと大変な大きな問題がありますので、そういうものを支援していきながら、やっぱり何か産業基盤をある程度安定させるような体制はつくれんものかなという感じがしているんですけどもね。

その辺で、この４年間が大変な恐らく期間になるだろうと思っていまして、中央会の傘下の会員も非常に苦しんでいまして、もうやれんやれんという話で、もう弱音ばっかりで、中央会なんていうのは駆け込み寺ですよ、本当に苦情を言ってくる聞き役みたいなもんでやっておりまして、ぜひその辺の産業基盤の支援策をもう一遍考えていただいて、ひとつ基盤ができ上がるような体制、支援対策を考えていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○会長　ありがとうございました。

○委員　済みません、私も実は農業のことでちょっと意見を言わせていただきたいんですけども、農業を例えば始めようと思っても、農業法人を立ち上げて、そこで農業を経験した人が柱になってやっていかなければ認めないというふうになっている。それで、今言われたように、高齢化で荒れ地はいっぱいあるんですよね。今、私たち福祉の者も、企業、法人として農業を起こしてやりたいっていう部分が非常に強いわけなんですけども、国は、いや、そんなことよりか個人補償した方がいいとかっていろいろ言われております。そこで、何か島根県は特区で、参入特例などを考えてもらうと、とても喜ぶんじゃないでしょうか。というのは、約１０年前我々が荒れ地になっていた三隅の棚田を、地域の方と福祉の方と、大学生と一緒になって復活をさせたんですよね。そうしてくると、だんだんと、

じゃあやっぱり棚田を盛り上げるかというので、むしろ離れとった農業の人が、また戻ってきてやり出して、今はとっても棚田が繁栄しております。

また、今、石見には、自然環境がいいし薬剤を使わない、いい葉物があるということで、結構東京では市場が高く売れているようです。農業はもうからんから、あんなものはだめよとかいうんじゃなくて、企業と合体してできるようなものに、国は云々ですが、ちょっと島根県で大なたを振ってもらい、モデル的なものをやってもらうとうれしいなというのが１点あります。

それから、県立大の学長さんがいらっしゃるので申しわけないんですが、いつも私思うんです。実は島根県の浜田には１，０００人の大学生がいるんですよね。皆さんうらやましがられるんです。１，０００人も若者がおって、すばらしいねって言われるんですけども、その学生たちと、今ちょっと隣の江津でもいろいろ、仕掛けをするっておっしゃっていましたけども、やはり大学を核にしたまちづくりをしようと言いながらも、それぞれがどう動いていっていいかわからないという現状があるんですよね。

そうなってくると、コンパクトシティーを目指していく中で、地域の賑わいを学生さんの力を借りて取り戻していくために、我々もみんなで援助をする、応援をするというふうにならないと。以前、買物難民など疲弊したイギリスの町が学生の力で賑わいを取り戻す内容のテレビ番組を見たんです。あんな山の上に寄宿舎を置くことはないですよね。むしろ若者をまちの中に置いて、それでまちには空き家が多くなっていますし、その方で老人やら子供やら学生やらと区別無く一つのアパートに住めるようなものをつくりながら、賑わいを山ではなく、まちの中に持っていけば、まちが活性化して、また次なるものが生まれてくるんかなあという、これちょっと夢を持っているんです。賑わいのあるまちづくりと農業が、一番大事になるような気がします。その実現には、食べられる、自立できる農業をできるように、みんなで支えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。これから具体のものがいろいろ出てきますので、ちょっと今の思いを話しました。

○会長　ありがとうございます。

○委員　さっきありましたように、全国で３番目に森林の割合が多いということでございますけども、皆さんのお手元に、２０年の３月のこれが送られたと思うんですが、その当時、この時も私とか、他に委員であった方もいらっしゃいますが、時期が来ますと、各県、４７都道府県、それぞれこういう、当然総合発展計画を持たなきゃいけないということでありまして、それが今回の機会なんですけど、こうして皆さんでいろいろと意見交換する

ことも意義がありますし、こういった、もう既に立派な、優秀なる県職員の皆様方が、もう既に完璧に近いような一つの素案といいますか、もうできてはおるんですけれども、我々の今お話もあったような悩みといいますか問題点、これは恐らく各県ほとんど、東京を除いて、あるいは大阪を除いて、あるいは名古屋を除いて、同じような共通の、定住がどうだとか、鳥取県にしても山口県にしても恐らく、広島はちょっと違うんだろうと思いますが、もうほとんど共通項の国家的な問題、産業の問題とか、さっき他の委員がおっしゃったんですけど、そういった資本主義の本当にこういう体制の中でやむを得ないこととかいろいろあるのは、これはしようがないことだと思って、これは国の施策、あるいは世界経済の流れとかということで抗しがたいこともあろうかと思うんですけれども、私は今、都会の生活もかいま見て、もちろん学校を出てからこっちへ帰ってきたんですけど、島根はトータル的に物すごくいいなと思っておるんです。ただ、これ、島根を知らない若者に、都会志向である人に、満足度も得ないまま島根に残れと言っても、これもなかなか難しい問題で、知事さんも市長さんも青雲の志を持って東京で御活躍なさって、東京の生活も見て、あるいは島根をどうしようかということで、非常に満足度を今持って仕事をしていただいておると思うんですけれども、だから、若者はやはり世界を知るといいますか、井の中のカワズであってはいけないので、かわいい子には旅もさせなきゃいけないし、大体そういうやっぱりＩターンとかUターン、そういった方が本当の島根のやはりよさをわかりながら、そういった物の考え方といいますか、そういった思想的なことを、非常に難しいことですけれども、ここになかなか書けないようなことも重要じゃなかろうかなと思っております。

それで、この計画書ができ上がって、果たしてどれだけの人が読んだだろうかと。我々もいろいろ侃々諤々までではなかったかもわかりませんがやったんですけど、でき上がるまでのことが非常にある意味大事なことでありまして、島根だけでなくて、鳥取県も同じような悩みを持っておるでしょうし、そういった、ある種、諦観も、あきらめの境地も抱きながら、でも島根県はいいところだということを広く県民が共有するような格好に持っていけたらなと思っております。非常に抽象的なことで申しわけございませんが、皆さん全員御発言のようなので、私も発言させてもらいました。

○会長　ありがとうございます。

今、御指名させていただこうと思っていたんですけども、観光振興ということで、やっぱりこれは島根県の一つの大きな柱ですので、ぜひ何か御発言がありましたら、お願いし

たいと思います。

○委員　皆さんのお話を聞きながら、若者というキーワードとＩターンというキーワードにずきずき来ている部分があったんですが、島根県民になって、まだ８年目でございます。大阪からＩターンで隠岐島に行ったんですが、この８年、一度も移住したことを後悔した日はありません。というぐらい、非常に住みやすいところで、私は大好きなんですけども、まだまだ島根県という大きなくくりで見ると、知らないところがたくさんありますので、ちょっと隠岐に限定した話にはなりますけども、いろいろ定住に関しては皆さん、行政の方も民間の方も支援をしていただいている中で、いろんな支援の中ではあるんですけども、一番大事なのがやっぱり地域の方とのかかわり合いというか、コミュニティーの部分かなと私は強く感じています。ですので、この中でいうと、ちょっとまた大きな枠組みも違ってはいたんですけども、地域コミュニティーとＵ・Ｉターン、定住というところは切り離せないんじゃないかなと思っています。

それと、事隠岐に関して言いますと、どうしても海で隔たれております。隠岐という地域の中でも４つの島に分かれてしまっていますので、医療の問題であったり交通の部分であったりというのは、一言で隠岐と言っても全然違っている部分がありまして、隠岐の島町ではことしから初産も含めて島でお産ができるようにはなったんですけども、じゃあ島前というエリアではそれが可能かといえば、まだまだその問題はクリアされてなくて、じゃあ島前の人が隠岐の島町、島後に来て子供を産むかといえば、実は産まなくて、皆さんやっぱり松江に出てきておられるんですよね。そういう現状も踏まえて、まだまだいろいろとみんなで考えていかなきゃいけないのかなと思っています。

ただ、私、個人的にはこの隠岐というか、島根が大好きで来ていますので、この会議では、現状、大変な部分がたくさんあるんですけども、それを踏まえた上で、４年後ですかね、４年後、また１０年後に自分や自分の大好きな人が笑っている姿を想像した話をしていきたいなと思っています。頑張ります。

○会長　ありがとうございました。

まだ御発言いただいてない方はいらっしゃるんですけども、よろしいですか。

それじゃあ、少し簡単に。申しわけないですけども簡単にお願いできればと思います。

○委員　私は、大田市なんですけども、大田市の温泉津というところなんですが、私たちも非常に、もう先を見ますと高齢化しておりますので、非常にこの先がこのまちも大変だなというのは目に見えておるわけですが、それで学校がなくなり、廃校になりまして、中

学校も今、ここ一、二年でなくなるという現状なんでございます。

そして今、ちょうど小学校の廃校の跡をどう使うかという計画をしまして、ものづくり工房とか、そうしたＮＰＯとか、そういう人たちに使っていただくということで今、そのまま置いてもらうことにしておりますけども、そして若者がいないということは、まちにとりましても非常に先の暗いことでございますが、こうした頑張ろうとして帰ってきた若者たちを応援したいなという気持ちで今、その人たちの環境づくりをしたり、頑張っております。

そして、大きい企業が３つあったんですが、みんな倒産してしまいまして、非常に今、何もない状態、働き場がないという状態で、若者に残れって言うのが非常に難しいことになっておりまして、そういったところへＮＰＯがちょっと手助けしてくれるとかいうことの今、期待をしておるんですが、そうした若者の、これからやっていこうとする、そうしたことにまた何か支援がいただければと思います。

○会長　ありがとうございました。

まだまだいろんな御意見があろうかと思いますが、少し後の知事さんの予定もございますので、今日のところはこのぐらいにさせていただきたいと思います。

それで、先ほど説明がありましたように、１１月の下旬ごろに県の方でこの素案を整理していただいたものでもって、もう一度審議をしていただくということになろうかと思います。それまでのところで、ここ１週間ぐらいのところで、きょう、これだけはぜひ言いたかったのに言わせてもらえなかったということがありましたら、事務局の方までお知らせをいただければ、そういったことも参考にさせていただきたいと思います。

それでは、今日の議論を参考に、事務局の方で整理をしていただけたらと思います。

議事は以上で終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局　山本会長、どうもありがとうございました。

委員の皆様、どうもありがとうございました。

次回の予定ですけども、きょうのスケジュールにもありましたように、１１月下旬ということで考えておりまして、本当に御多忙の皆様方と思いますけれども、来週のところで日程調整させていただきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

最後になりましたけれども、知事の方からお礼のごあいさつをさせていただきます。

○溝口知事　非常に活発な御意見をお話しいただきまして、非常に参考になるところがあったと思います。

この島根の抱える問題をどういうふうにとらえるかと、いろんな視点があると思います。そういうものが今日、いろんな角度から出ておるというふうに感じておるところであります。それをどういうふうに整理をして、どういうふうに実行していくか、我々でできること、あるいは国に要請もしなきゃいかんこと、あるいは住民の方々にもお願いしなきゃいかんこと、あるいは経済界、あるいはＮＰＯの方々、いろんな方法があるわけでありまして、政策としてそういうものを全体としてどういうふうに構築していくかということが、この総合発展計画の大きなねらいであるわけでございます。ある委員さんもおっしゃっていたわけですけれども、全体を上げると、今日、お配りした資料にはいろんなものが大体上がっているわけですけれども、そういうものをどういうふうに重点を置いたり、具体的にどういうふうに進めるかと、それが私ども行政が考えなきゃいかんことでありますけれども、考えるに際して、やはり皆さん方の意見をいろいろ聞いて、それを整理をしてみようというのがこの総合計画だろうと思います。

今日の感想でございますが、審議会でこのように活発な議論が出るというのはなかなかないことでございまして、非常に私どもとしてはありがたい、うれしいことだと思います。こういうふうにお思いのことを率直に言っていただくというのは非常に参考になるわけでございまして、次回以降もこのような感じで進めていただければというふうに思う次第であります。ありがとうございました。

○事務局　本当に委員の皆さんには、本日、熱心に御議論いただきまして、本当にありがとうございました。

以上をもちまして本日の会議を終わりにさせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。